

# 野間道場のしより

講談社剣道部  
野間道場道好会

野間清治社長による書

(3頁参照)

然渾一體

渾然一體

〔體一然渾〕

持田盛二先生の書

邦良

報徳正直

〔世正徳報〕

講談社

野間道場



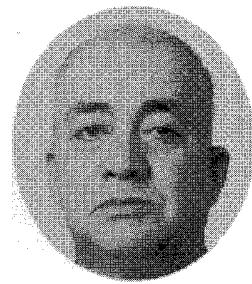
初代 野間清治社長



野間道場正面玄関



護国神社



昭和四十一年七月吉日

株式会社 講談社

社長 野間省一

## 護国神社の由来

護国神社は本社初代社長野間清治が、昭和九年新社屋の竣工と同時に構内の名園、音羽の滝の畔に造営し奉った来歴に創まる。その由緒をたずねるに、講談社の敷地は嘗て伯爵、山田顕義の営んだ邸宅の跡と謂われ、伯が司法大臣在任中畏くも明治天皇の行幸を辱した聖跡の地とも伝えられていたので、昭和九年十一月三日特に明治神宮の御神璽を拝戴して祭神を仰ぎ護国神社と称し奉り、爾來全社崇敬例月の祭日には奉斎怠るなく今日に及んだ次第である。然るに今般高速道路五号線の建設に当り、その用地として偶々音羽の滝周辺一帯が収用されることになつたので、新しく神域をこの地に定め御遷座奉祀することになったものである。(野間省一)

# 世界に拓く「野間道場」

講談社社長 野間 佐和子



野間佐和子社長

徳を広く説こうとしました。

野間道場が、この音羽の講談社の敷地に建てられて、今年で七十二年になります。

一時閉鎖された時期はありますが、年中無休で朝夕の稽古に日本中から訪れた剣士が、この道場で汗を流し、人生を語らつてまいりました。

初代講談社社長であり、私の祖父である野間清治の人生哲学の根幹は剣道ありました。

長くなりますが、「野間清治伝」より引用させていただきます。

「武の目的は平和にある。人と和し、天と和す。大なる此の調和が武の徳である。(中略)一部は一部として完成し、全部全身が我が心のままに渾然として最善を尽すと同時に、ことごとくが、一致協力して、初めて立派な太刀となる。(中略)これ渾然一体(講談社の社是となつてゐる)の和の力、即ち瞬息、心氣力の一一致によるものである。『一部と全部』の理法常にこれなるかなと感嘆するのである」そして「剣道の教えは、剣のみに止まらず、万法一法、実は世上百般の教えに通じてゐる」即ち「剣道のすべてが、眞に人間完成の至上道であること」に気づくであろう「と説いています。

持田盛二先生(十段)、佐藤卯吉先生(九段)、増田真助先生(九段)を中心に戸間道場は戦前以上の活況を呈しました。最近においても、講談社剣道部をはじめ、道好会の皆さまの努力により、会員も四百名を越えると聞いております。

剣道も世界的になり、今年、京都において、第十回世界剣道選手権大会が行われましたが、大会前後に、チェコ、イギリス、イスラエルの剣士が戸間道場を訪れました。

日本のみならず、世界の剣士にとって戸間道場で稽古することは、大変な名誉であると聞いています。嬉しいことです。

父、野間省一は「世界に拓く講談社」をモットーに、出版を通して、日本の文化を世界に紹介し、世界の文化を日本に取り入れ、戸間アフリカ出版賞をはじめ、多くの事業を世界で展開してまいりました。戸間清治の説くところの「世界の大調和」に他なりません。

戸間道場も世界に拓かれた、といつてもいいでしょう。

戸間道場を訪れる、日本の剣士の皆さま、そして世界中の剣士の皆さん、どうぞ、戸間清治、戸間省一のこの精神を忘れずに修業をつまめて下さい。これこそが戸間道場を大切にするという、ほんとうの心と想います。

野間清治は剣道を修業の道とし、剣道によつてもたらされる大調和の世界を追い求め、武の

武の徳とは、「戈を止めることであり、「左伝」(春秋左氏伝)の中で七徳ありとされています。即ち「夫れ武は暴を禁じ、兵を戢め、大を保ち、功を定め、民を安んじ、衆に和し、財を豊かにするものなり」と説かれています。戸間清治の人生はこの顯現にほかならないといつてもいいでしょう。

戸間清治は、この大調和の世界を、この戸間道場で実現し、世界に発進しようとしたのではないでしょうか。

昭和十九年に一時、戸間道場は閉鎖されましたが、私の父、戸間省一はこうした精神を汲み、昭和三十七年の秋に再開に踏切ったのでした。

# 「野間道場のしおり」

## 発刊にあたつて

講談社最高顧問

服部 敏幸

を越えた大きな心で、野間道場を日本中の剣士に開放されたのです。

持田盛二先生を野間道場に師範として招かれてからは、ますます隆盛を極め、昭和九年には野間社長の御子息、恒さん（二代目社長）が天覧試合に優勝、昭和十五年には増田真助師範と講談社社員の望月正房君が優勝という大偉業を成し遂げました。また、各種団体戦でも恒さん、そして昭和の小天狗といわれた森寅雄さんを中心に望月君や私なども出場して、破竹の連戦連勝で、まさに野間道場の黄金時代でした。

当時の剣道界は派閥意識が強く、他の道場にいって稽古のすべてが眞の人間完成につながる。それゆえ、道場には哲学があり倫理がある」と説かれ、剣道を率先して奨励されました。

野間道場は今年で七十二年の歴史をもつにいたりましたが、初代社長、野間清治は「剣の妙味を悟るならば、剣道

戦後はGHQの指令で剣道は中止され、野間道場も一時中断しましたが、野間省一社長の御理解のもとに、昭和三十七年の秋から、持田盛二先生を中心に、伝統ある朝稽古が再開されたのです。現在では森島健男範士九段を師範に道好会の鏑木会長が中心となって、毎朝七時より八時まで、休むことなく激しく厳しい稽古が行われております。

近年、青少年の間で剣道熱はますます高まってきております。冒頭の初代野間社長の説かれるように、剣道は一生生涯やれる武道であり、人間形成のための修養の武道でもありますから、大いに奨励すべきものでしょう。

伝統ある野間道場より、時代をになう立派な剣道家が、またその指導者が続々と輩出し、日本の、そして世界の剣道界発展のために、少しでもお役に立てればと心から念じております。（全国学校剣道連盟副会長、剣道範士）



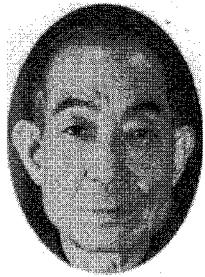
服部 敏幸  
講談社最高顧問



道場正面



道場風景



## 野間道場小史

望月 正房

講談社野間道場は、大正末期、初代社長野間清治氏の熱意によって創立された。野間清治氏は学生時代から剣道と文筆と演説にほとんど熱狂的な興味を持っておられた。

その武道観として社長は、剣道は人間道である、と言う。三尺の剣をもって立ち向うそこに宗教があり、道徳があり、社会がある、智もあり勇もあり仁もある、社会のあらゆるすがたがここに存するのである。

その武道観として「剣道即人生」を標榜に、社員の人づくりに剣の持つ理合をあてはめ推し進めたことに、野間道場は始まる。

大正十二年、令息恒氏が十五歳にして隣接大塚署にて稽古をされ、後に有信館に入門された。大正十二年八月には教師として安部義一氏を招き、翌年四月に和佐田徹三氏を、さらに十四年四月に増田真助氏が師範兼社員として入社された。これによって講談社の剣道は活況を呈し、その年の秋には野間邸内の裏の森に幅五間奥行き六間木造瓦ぶきの道場が建設された。

当時は午後四時から五時頃まで、剣道の稽古時間は執務時間扱いとして少年社員に剣道を奨励した。社長も又忙し

いなかを道場に出られて、いろいろ感想なり、批評をされたり、始終端然と座っておられたのでいやがうえにも盛んになつた。

昭和二年には第一回の剣道大会が開かれ、昭和五年八月には第一回昭和天覽試合に指定選士として優勝された持田盛二先生が朝鮮総督府の師範であったのを、懇請して野間道場の師範に招き、同時に講談社社員となられた。持田先生が道場に来られてから剣士は激増、教えを乞う剣道愛好家が東京は勿論全国から野間道場を訪れるようになり、この時から午後の稽古と、さらに朝稽古を七時から八時まで一日二回となつた。同年十一月には道場を増築、いよいよ飛躍の過程をたどるのである。

毎朝の稽古には持田範士を筆頭に、増田真助、矢木参三郎、大野友規、桑田福太郎、大畑郷一の各専任の先生はじめ、教士の諸先生方は四、五十名に達し、稽古も外来剣道家をはじめ、少年剣士、女性剣士を加えると百名を越える盛況となつた。道場が狭すぎるので再び昭和八年十一月に第二回の大増築を行い、稽古場だけでも幅五間、長さ十六間という民間道場としては日本屈指の立派な大道場となり、年と共にいよいよ発展していった。

朝稽古が終ると先生方は、順番に入浴し、道場で出す朝がゆと味噌汁で朝食をとりながら懇談し、爽快な気分でそれぞれの勤務先へ出かけていったものである。

現在大御所といわれている剣道家は、必ずといってよい

昭和九年五月、野間道場史を飾るにふさわしい快挙があった。それは皇居内済寧館で行われた、皇太子殿下御生誕奉祝天覧試合において、野間恒氏が二十六歳にして東京府代表選士として二日間にわたる試合のすえ見事優勝をかち得た。これによって、いよいよ講談社の剣道が名実共に高く評価されるようになつた。その後も恒氏は剣道に精進されたが、昭和十三年、三十歳の若さで尊父野間清治のあとを追うように逝去されたことは、野間道場にとっても又剣道界にとつても大きな損失であった。

この間昭和二年六月の皇道義会主催の大会において、大将野間恒、中堅森寅雄、先鋒土田仲次のメンバーで優勝した。以来、八年、十一年、十四年の皇道義会、さらに十二年、十四年の全日本官庁実業団体試合等で優勝した。講談社剣道の優勝回数はめざましいものがあつた。

なお昭和十五年三月現在の講談社社員の有段者記録によると、五段四名、四段三十三名、三段二十一名、二段三十二名、初段百十六名、計二百六名にのぼり、鍊士の称号を有する者は、笛木悌治、黒岩正実、羽石唯義、栗原利彦、安部正雄、諷訪好太郎、町田政雄、植田憲平、小河丑松、服部敏幸、小池金作、柿沼留吉、長岡済、望月正房、戸井徳次郎、大友端立、長井武雄、清水誠、大手秀夫の十九名であつた。さらに昭和十五年六月、紀元二千六百年奉祝天覧試合が行われ、指定選士として講談社野間道場師範増田真助が出場、また府県選士東京府代表として講談社社員望月正房が出席、師弟そろって優勝の栄誉を担つたことは、講談社野間

道場の歴史の上に輝く一頁を加え、野間道場の名声をいよいよ天下にとどろかせた。この時すでに初代社長野間清治氏も恒氏もなく、初代野間社長夫人が、三代社長として剣道にも深い理解を示され、道場は相変わらず隆盛の一途をたどつたが、第二次世界大戦も末期になると応戦者も多く稽古をする人員も次第に少なくなり、昭和十九年頃には戦争も苛烈となり、自然に道場から竹刀の音が消えていった。

終戦とともにGHQの命令で剣道は中断された。当時野間道場は戦災社員の住宅として利用され、終戦後もしばらくその状態が続いたが、昭和三十年頃から再び講談社社員道場として使用可能になり、昭和二十七年五月、東京都剣道連盟が組織され、剣道人口も増加してきたので、当道場も三十七年秋から再び一般愛好者に開放されることになった。

朝稽古は七時から八時まで年中無休で、当時は持田盛二範士を中心に、多数の剣道爱好者が集まり、再度野間道場は盛況を取りもどした。

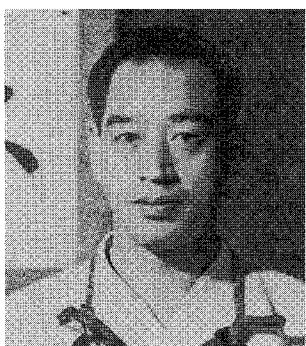
持田盛二範士、増田真助範士、佐藤卯吉範士、鶴海岩夫範士、小沢丘範士、小川忠太郎範士、大野操一郎範士、中野八十二範士等の指導者が亡くなられ、現在は森島健男範士九段を中心に、多数の鍊々たる先生方が指導され、教士鍊士をはじめ、一般、学生、少年、女性など多数の剣士が集まり、再び戦前の盛況ぶりに戻っている。

講談社剣道部員は、月、水、金の週三回、午後六時から七時まで、初代社長の遺志をついで社業のかたわら剣道に励んでいる。

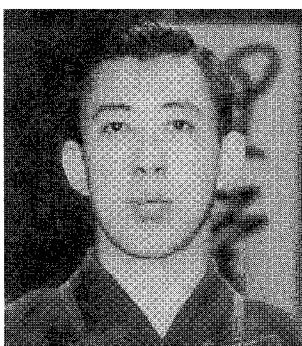
# 講談社野間道場年譜

天覧試合優勝の選士

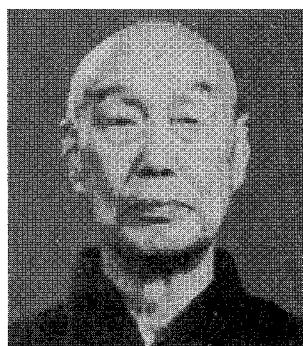
			明治 11・12・17	講談社初代社長野間清治生まる（群馬県山田郡新宿村・現桐生市）
			42・4・24	野間恒（清治長男）生まれる
		大正 12	43・2・11	野間恒（清治長男）生まれる
			12・8	野間恒（清治長男）生まれる
			13・4	剣道教師として安部義一を招聘
			14・1	剣道教師として和佐田徹三を招聘
			14・1	雑誌「キング」創刊
			14・4	増田真助師範兼社員として講談社に入社（野間邸内の広場を剣道の練習場として稽古す）
		昭和 2・5	14・10	野間道場音羽現在地に落成（幅五間、奥行六間の稽古場）
			14・10	野間道場において第一回の剣道大会開く
		6・24	6・5	第六回皇道義会武道大会において「大日本雄辯会講談社剣友会」優勝（野間恒、森寅雄、土田仲次）
			7・8月	中山博道他剣道大家を招いて夏期講習会を開く
			3・1	群馬県伊香保温泉の別邸に道場落成
			4・5・5	第一回昭和天覧試合指定選士の部で持田盛二優勝
			5・8・16	持田盛二を野間道場師範として招聘
			5・11	音羽野間道場増築
11・10・9・10・25	8・5・5・5	8・5・21	8・11	第十回皇道義会武道大会において「大日本雄辯会講談社剣友会」優勝（野間恒、森寅雄、林正久）
				野間道場第二回の増築、民間では日本屈指の大道場となる
				皇太子殿下御誕奉祝天覧試合で、野間恒東京府代表として出場し優勝
				静岡県伊東温泉の野間別邸に道場落成
				第十五回皇道義会武道大会において「大日本雄辯会講談社剣友会」優勝（中村千代吉、望月正房、戸井徳次郎）



(増田真助)  
昭和15年  
紀元二千六百年奉祝天覧試合  
指定選士  
優勝



(野間恒)  
昭和9年  
皇太子殿下御誕奉祝天覧試合  
府県選士  
優勝



(持田盛二)  
昭和4年  
第一回昭和天覧試合  
指定選士  
優勝

50	49	49	47	46	45	45	40	37	年秋	27	27	27	14	13	13	12	•	6	•	13
•	•	•	•	6	10	•	•	•		•	10	4	11	13	10	•	6	•	10	•
5	6	2	•	25	31	28	20	19		28	19	20	20	28	19	16	13	10	16	13
•	•	•	•	26	9	27	14	11		27	14	11	11	14	13	10	•	6	•	13
50	49	49	47	46	45	45	40	37	年秋	27	27	27	14	13	13	12	•	6	•	13

野間恒死去（享年61歳）  
井徳次郎（

早稲田大学主催第三回全日本官庁実業団体試合において「大日本雄辯会講談社剣友会」優勝（中村千代吉、馬淵（服部）敏幸、望月正房、茂木保男、戸井徳次郎）

野間清治死去（享年61歳）  
野間恒死去（享年30歳）  
月正房、戸井徳次郎、加藤静一（

第十八回皇道義会武道大会において「大日本雄辯会講談社剣友会」優勝（望月正房、戸井徳次郎、加藤静一）

劍道連盟主催第一回全日本官庁実業団体試合において「大日本雄辯会講談社剣友会」優勝（望月正房、戸井徳次郎、黛幸助、長井武雄、加藤静一）

紀元二千六百年奉祝天覧試合において指定選士で増田真助、府県選士で望月正房優勝

県選士で望月正房優勝

戦時色濃くなり、野間道場中断

（16・12・8 太平洋戦争勃発）

戦時色濃くなり、野間道場中断

（講和条約発効）  
（講和条約発効）

（元講談社社員長井武雄、文京区小日向に妙義道場を開き、持田盛二、増田真助ともどもこちらで指導）

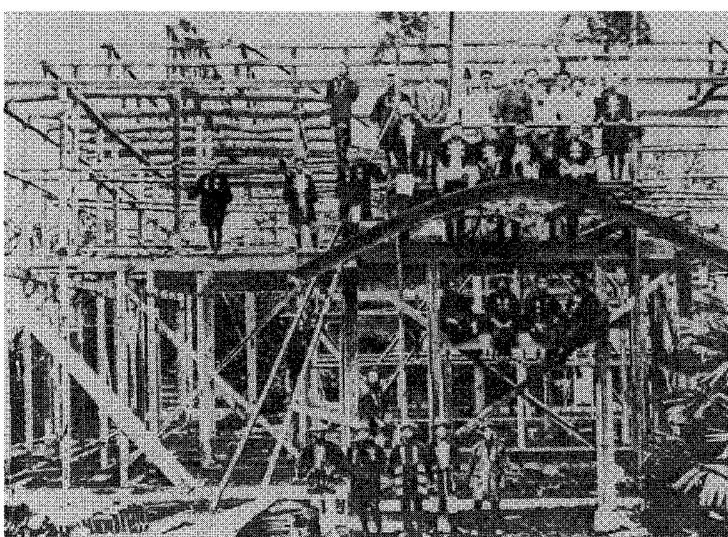
野間道場再開 戰前からの剣道家再び集まり剣道盛んになる

持田盛一 眞助三等旭日中綬章を授与さる

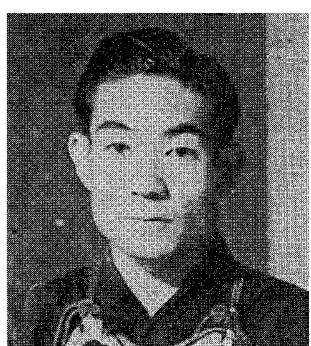
佐藤卯吉 眞助三等瑞宝章を授与さる

小澤丘 眞助三等瑞宝章を授与さる

増田真助範士死去（享年70歳）  
増田盛一範士死去（享年89歳）  
第一回出版剣道大会開催・講談社優勝  
高田政信範士死去（享年77歳）



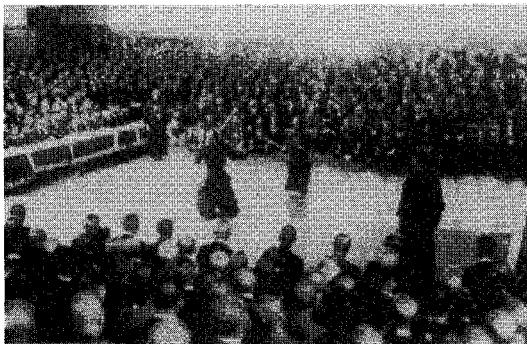
野間道場の上棟式 大正14年7月、神田明神わきの道場を買い取って運び再建したもの



(望月正房)  
昭和15年  
紀元二千六百年奉祝天覧試合  
府県選士  
優勝

平成	51	6	・
元	4	8	・
元	24	14	
9	11	6	・
7	4	11	6
6	1	11	4
4	3	11	4
3	11	4	3
元	11	10	3
元	61	60	59
61	60	59	58
60	59	58	53
59	58	53	・
58	53	・	8
57	56	55	11
56	55	54	
55	54	53	
54	53	52	
53	52	51	
52	51	50	
51	50	49	
50	49	48	
49	48	47	
48	47	46	
47	46	45	
46	45	44	
45	44	43	
44	43	42	
43	42	41	
42	41	40	
41	40	39	
40	39	38	
39	38	37	
38	37	36	
37	36	35	
36	35	34	
35	34	33	
34	33	32	
33	32	31	
32	31	30	
31	30	29	
30	29	28	
29	28	27	
28	27	26	
27	26	25	
26	25	24	
25	24	23	
24	23	22	
23	22	21	
22	21	20	
21	20	19	
20	19	18	
19	18	17	
18	17	16	
17	16	15	
16	15	14	
15	14	13	
14	13	12	
13	12	11	
12	11	10	
11	10	9	
10	9	8	
9	8	7	
8	7	6	
7	6	5	
6	5	4	
5	4	3	
4	3	2	
3	2	1	
2	1	0	

佐藤卯吉死去（享年80歳）  
 鶴海岩夫範士死去（享年67歳）  
 渡辺敏雄を講談社師範とする  
 道場床半分を張替える  
 道場台所、浴場、二階部を改装する  
 森田文太郎範士死去（享年88歳）  
 野間省一 獲一等瑞宝章を授与さる  
 逸見和夫範士死去（享年75歳）  
 中野八十二範士死去（享年74歳）  
 服部敏幸 獲二等旭日重光章を授与さる  
 渡辺敏雄範士死去（享年77歳）  
 森島健男を講談社師範とする  
 小澤丘範士死去（享年91歳）  
 小川忠太郎範士死去（享年91歳）  
 望月正房範士死去（享年79歳）  
 服部敏幸 獲一等瑞宝章を授与さる  
 大野操一郎範士死去（享年94歳）  
 第二十一回出版剣道大会開催



昭和15年天覧試合府県選士決勝



昭和9年天覧試合府県選士決勝

# 戦後の野間道場

鎌木 武盛

野間道場は昭和初期より日本最高水準の大道場として賑わいを見せて居りました。大東亜戦争の激化により一時閉鎖しましたが、昭和三十七年秋戦前どおり不世出の名人、現代剣道の元祖持田盛二を主席師範として再開されるや忽ちにして旧前の姿に戻りました。

講談社野間道場は建設の趣旨の許、広く世に開放されて居ります為都内近県のみならず、他道府県、更には諸外国からも修行者が数多く来場し、茲に社外剣士総てを包括して野間道場道好会と称して居ります。

講談社武道場としての基本理念を体し、然も時勢に逆わず、流動的に剣士を迎えて居ります。今日では女流剣士も多くの又正しい剣の道を学ぶべく入門する初心者も居ります。

野間道場は講談社剣道部の管掌下にあり、文武両道に秀でた師範を迎え、同社より委嘱された代表世話人、若干名の世話係（役員）が事務局、道場係、会計係として夫々の部署を「和」を以てその取まとめの任に当って居ります。

会員の中には由緒ある町道場主、官民団体、地区剣友会の先達、諸官庁の師範、武道関係の学校教師、各界に活躍の方々、等々その名を列ねる者、多士済々。株式会社講談社の繁栄と共に野間道場は磐石の安きにあります。

（代表世話人・野間道場道好会会長）



最近の稽古風景

## 野間道場の思い出 (少年部の頃)

鎬木 道盛

野間道場は戦前は市電の音羽三丁目で降りて坂を上り電柱二本程の距離、坂の中腹を右に入った所が目標でした。

春は桜が咲き誇り、初夏にはつづじが匂う様に咲く、道場の中庭には春、夏、秋といろいろの草花が風情を添え、講談社から道場に行く途中には樹木が繁り、夏は蝉時雨が聞かれ、水が豊富で水質のよいのが有名でした。誠に東京には珍しい、閑静な修業道場です。道場の広さも戦前では皇居の済寧館を除いては一番広かつたと思います。

昭和十三年八月初旬、千葉県八日市場市の福岡明先生の御紹介状を頂き、野間道場の増田真助先生、大畠郷一先生を訪ね、それからずつと稽古をさせて頂きました。

その時福岡先生から、

「野間道場は野間清治社長が剣道を大いに奨励され、持田盛二先生を始め全国の有名な先生を招聘された。その為この先生方に稽古を頂く為に又全国の先生方が雲の如く集まつた、名実共に日本一の道場である。五段以上の先生には朝御飯が出る」と伺って居りました。又伊香保にも道場がある、多くの先生始め学生等が集まり、九時から三時頃まで猛稽古が続いていたことは有名です。

丁度その頃は最盛期だったと思いますが、今の野間道場が先生方でぎっしり一杯でした。私などは一番隅の鏡の前



盛況な朝稽古

少年部稽古風景

で仕度をして、稽古も上の先生方の処には頂きに行けませんでした。

特に印象に残る先生としては、

増田真助先生

朝はお願い出来なくて、午後の部では毎日お稽古を頂戴しました。稽古が激しくて小手を打たれてはれ上り、熱が出たのを覚えて居ります。又散々突き上げられました。

望月正房先生

毎日お稽古を頂戴しました。猛烈な片手突き、体当り、小手、足掻みと息つく暇もなく、畠に倒されない日は一日もありませんでした。当時は有名な天覧試合に優勝される前でしたから、稽古は猛烈を極め、恐ろしかったが一番お世話をなった先生です。

森田文十郎先生

稽古が終るといつも道場の廊下に真白な風呂上りの肌でペたりと坐って道場をご覧になつている姿が目に浮かびます。

大畑郷一先生

居合の先生、かかり稽古は天下一品との事でした。がつちりした構えが印象的です。

三橋秀三先生

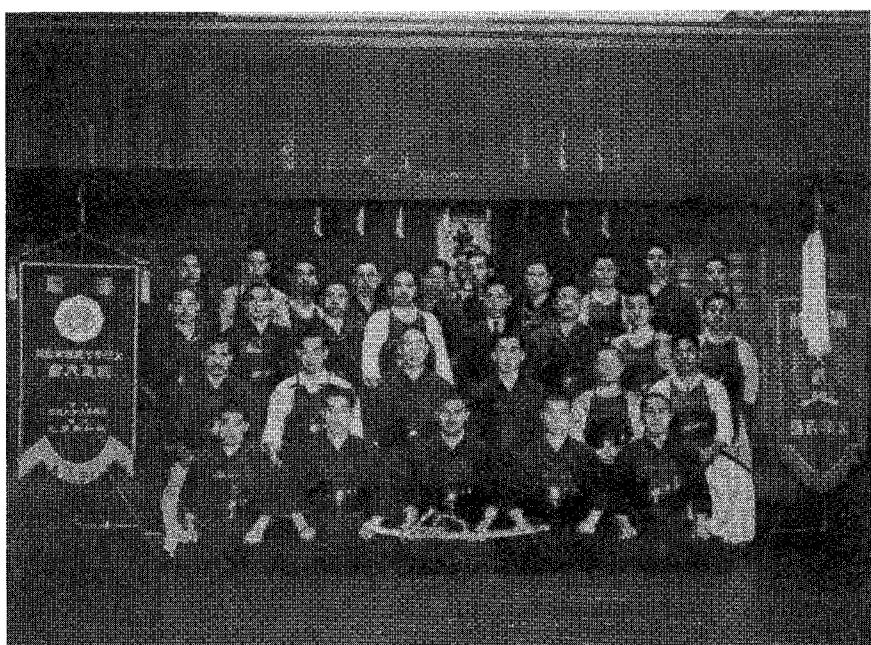
東京高等師範学校の先生で長身、片目が悪いと聞いて居りました。

八木参三郎先生

三橋先生とは正反対の小柄な先生で、毎日毎日お願いし

ました。構えは剣先が高く、体当りでよく畠に倒されました。特徴のある“めがね”が思い出されます。

その他、清水誓一郎先生、東嶋政一先生、宇賀元雄先生、大野友規先生、岩崎清七先生など沢山教えて頂きましたが、当時は垂に名前が書いてないので、お名前と一致しません。



全日本官庁実業団団体試合優勝（昭和12年6月13日）

## ☰ 野間道場の三大特長 ☱

### 一、一年中稽古出来る事

昔から年中無休で時間が一定しておりますから、遠隔地の方でも自由に来れます。正課でやっている学校、警察でさえも日曜日は休みですから、毎日やっている所は他にはありません。

### 二、先生方の多い事

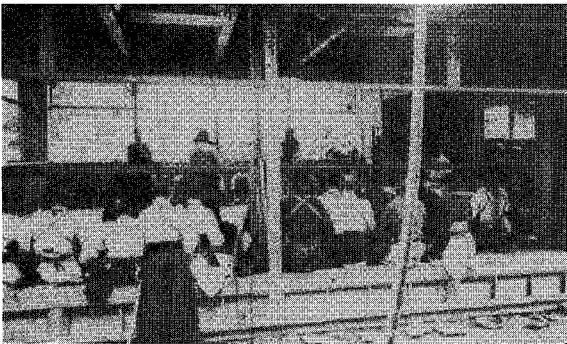
著名な先生、無名の強い先生方が沢山居り、かつ他府県や、海外からも稽古に来られます。

### 三、流儀に偏しない事

戦前は、高野佐三郎先生の門人は中山博道先生の所には行けなかったのですが、野間道場は、戦前戦後を通じ全国あらゆる流派の方がお互いに稽古出来ます。



千葉の道場は、この別荘の一隅にあった



伊香保の道場

## 野間道場道好会規約及び心得

3、贊助会員 正会員以外で会の趣旨に賛同年額一  
万円以上納入せる者。

一、会員以外で臨時に稽古される方（団体の場合責任者）は必ず玄関の芳名録に記入の上その旨道好会責任者又は世話係に申し出る事。

本会は講談社の御好意により成立しております。創立者野間清治社長、持田盛二師範等の精神と伝統を受けつき会員相互の親睦剣道技術の向上並びに青少年の指導を通じて剣道の普及発達を目的とし真に剣道を愛する会員を以て組織しております。当道場で稽古する者は常に講談社に感謝し会社の業務に支障のない様に心掛けて下さい。規約及道場心得に反する言動あるものは退会、道場の出入りを禁じます。

一、本会は紹介による会員制になっております。稽古される方は必ず入会手続をすませ会費を納入すること。紹介者は入会者の人物を確認し入会誓約書に署名捺印の上責任をもつ事。尚、道好会に於て不適格者と認められる方は入会及道場出入りをお断りする場合もあります。

一、本会の会員は次の通りとする。

1、特別会員 範士又は八段以上、会費は徴収しない。

2、正会員 教士又は七段以下で毎月会費を納入する者。

一、道場の出入りにさいしては神前及師範・先輩等に礼を失せぬ様又稽古中は相手の人格を尊重し粗暴なる言動のない様に注意し礼節を貴ぶ事。

一、道場内は所定の場所以外禁煙（火災に注意）他人の防具等無断使用を固く禁じます。尚、防具類は規定の場所に整頓、道場内外の清掃に心掛ける事。

一、稽古時間 朝稽古（午前七時～八時）稽古する者は特別の理由なき限り七時半までに来場すること。

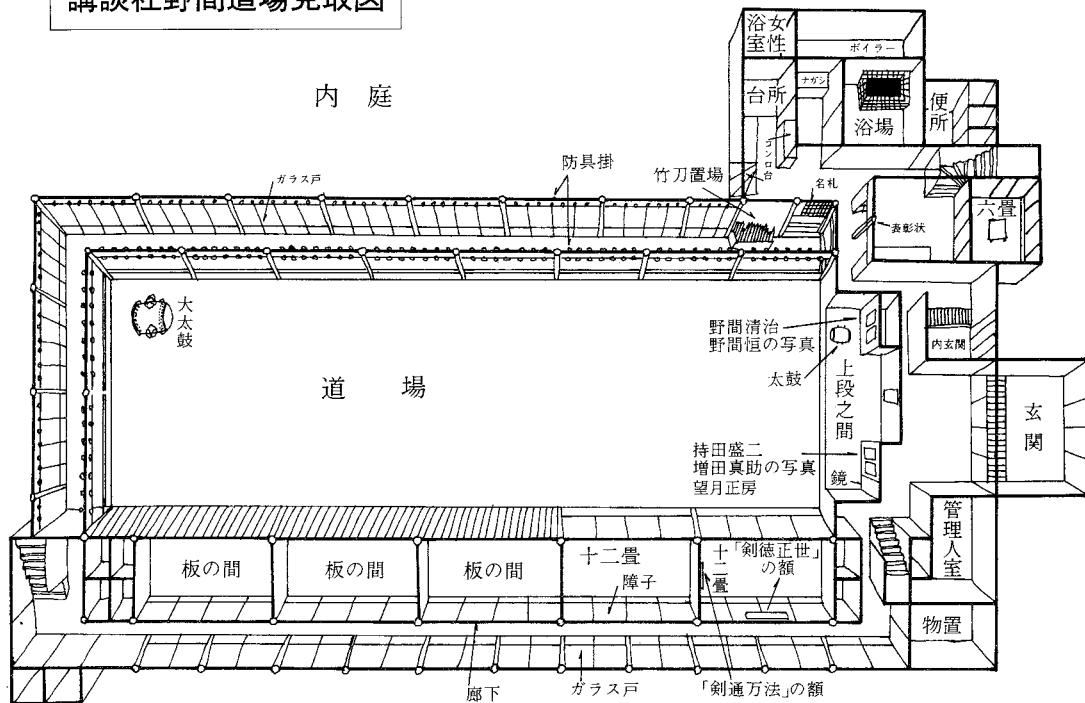
一、稽古は年末、年始以外特別な事由なき限り年中無休とする。

一、稽古終了後は原則として九時までに退場する様心掛け稽古時間外の道場の出入りを禁じます。

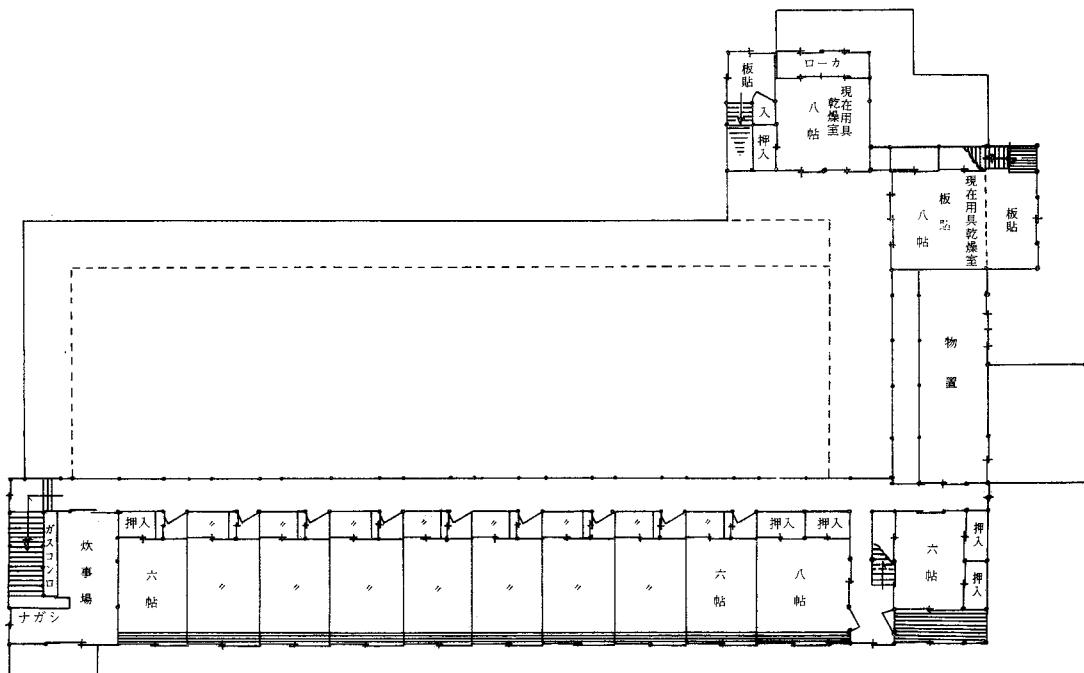
一、自動車は所定の場所に整然と譲合って駐車する事。

講談社野間道場見取図

内 庭



一階平面図



二階平面図

講談社剣道部

野間道場道好会

顧 師  
副部  
部長範  
問長  
太森伊宮杉森  
南原中組山島  
雲田正勝捷健  
春清武行幸三男  
雄良文宏義幸三男

東京都文京区目白台三丁目二九一-二一  
野間道場内

道場係 会計係 事務局 副会長  
(鈴)金下福 梅真福 萩鈴 野鈴 熊鑄  
澤野井村能井輪木尻木谷木  
西開直敏和直芳忠芳丈武  
望康喜彦彦喜勝行克行夫盛

印 刷 所 新協印刷株式会社  
發 行 者 木  
編 集 者 宮野間道場道好会  
發 行 日 平成九年九月十日  
講 談 社 剣道部  
道 場 道 好 会  
道 場 道 好 会  
野間道場のしおり

